

生活美観

日々の生活の中で、一人ひとりが身近なところから生活の仕方を改めたり、景観に配慮することによって、より美しい生活環境・景観を実現していくとすることです。本市の景観まちづくりの仕組みを作る中で、市民から提案され、本市の景観まちづくりで大切な考え方となっています。



手入れがされた玄関先



地域の美化清掃も生活美観を実践する活動のひとつ

スカイライン

空を背景として、山の稜線や建物の屋根が連続して作る輪郭線のことです。山並みに囲まれた本市の建物は、山の稜線に合わせたスカイラインを作るように配慮することが大切です。



山並み景観を引き立てる配慮が必要

地域景観拠点

地域の方に親しまれ、景観まちづくりの核となる景観資源を所有者の同意のもとで登録し、保全・活用をはかるものです。現在、28か所を登録しています。



地域の人々に親しまれる鎮守の森「東光寺薬師堂」

庭先

かつて、庭はそこに住む人が家の中から楽しむものでしたが、近年では、通りからの視線を意識する考え方によって変わってきています。花や樹木を飾ったり、昔ながらの生垣を大切に維持したりする取り組みが市内でも数多く見られます。



通りから見えるようにプランターを配置する取り組み

庭先協定

通りに面してとなりあう3軒以上の住宅や商店が、花木、植栽や看板デザイン等を協調するなど、よりよい景観まちづくりのために結ぶ協定です。市が認定することにより、初期費用の一部を補助します。

はだの景観ポストカード

本市の景観を手軽に伝えることができる写真のポストカードで、季節のあいさつにも活用できます。現在、4種類を市役所西庁舎前コンビニエンスストアなどで販売しています。



暑中見舞や年賀状にも活用できる

俯瞰

見下ろして眺めることです。本市では、渋沢丘陵から市街地を眺めたり、丹沢の山々に登って市内を見下ろしたりする景観が楽しめます。



市街地を一望できる弘法山公園ハイキングコースからの眺め

ふるさと秦野景観100選

平成17年度に市制施行50周年を記念し、市民参加により「ふるさと秦野景観」を選びました。冊子は市内の一部書店でも販売され、写真集としてだけでなく、観光や散策のガイドブックとしても活用されています。



1冊1500円にて販売中

ふるさと秦野生活美観表彰

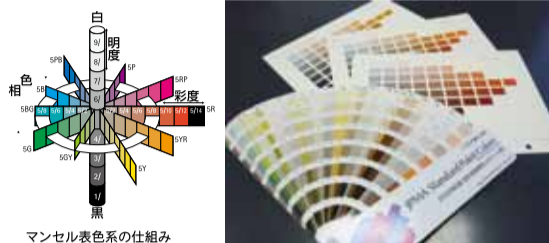
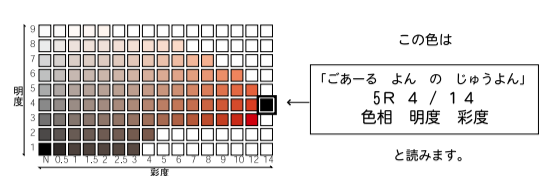
景観まちづくりに貢献する取り組みを表彰し、紹介する制度で、11月3日の「市民の日」に会場された皆さんによる投票を行っています。これから選定する第4回のテーマは「まちで見かけたステキな看板」です。



毎年多くの人々が集う「市民の日」での候補の展示

マンセル値/マンセル表色系

多くの人が色彩をより正確に共有できるように、色相(赤や青といった色合い)、明度(明るさ)、彩度(あざやかさ)の色の三属性を数値にしたもので、日本工業規格(JIS)でも採用されています。本市では、建物の外壁や屋根、屋外広告物の色彩について、基準があります。



マンセル表色系の仕組み

色彩を数値で表すことで基準を共有する

見て歩き

各地区の景観資源を知り、地区の良さを体感するとともに、参加する人それぞれが地域のことや景観まちづくりについて考えるきっかけとなることを目指すイベントです。これまで「ふるさと秦野景観見て歩き」、市民団体との共催による「近代たても見て歩き」、景観まちづくり市民会議による「市内街並み見て歩き」などを行っています。



景観まちづくり市民会議の「街並み見て歩き」

モデル花壇

景観まちづくり市民会議では、市民団体「はだの悠遊会」の協力で、水無川河川敷に花壇を整備しています。この花壇は、市民の皆さんの庭先で同じように生活美観づくりに取り組んでいただく模範として位置づけており、四季折々の花が道行く人々の目を楽しませています。



色とりどりの花はすべて市内の生産者の手によるもの

擁壁

地形が起伏に富んでいる本市では、平らな宅地にするための壁や土留めがつくられることが多くあります。無機質なものではなく、目にやさしい印象を与える配慮をすることが大切です。



模様のあるブロックを使うと目にやさしい印象に